

# “志波城前夜”の 蝦夷(エミシ)社会

—9世紀初頭以前の盛南地区—



盛岡市  
遺跡の学び館

Study Museum of Archeological Site

盛岡市遺跡の学び館第15回企画展

「“志波城前夜”の蝦夷(エミシ)社会 —9世紀初頭以前の盛南地区—」  
図録

平成29年(2017)10月7日 発行

編集・発行 盛岡市遺跡の学び館

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1

Tel 019-635-6600 Fax 019-635-6605

ホームページ>>検索「遺跡の学び館」

印刷 株式会社 阿部印刷

〒020-0873 岩手県盛岡市松尾町2-2



## 開催にあたって

21世紀の盛岡の新市街地として多くの人々が行き交う盛南(せいなん)地区。大規模な土地区画整理事業によりその街並みがつくられる以前、広大な田畑の下には多くの遺跡が眠っていました。岩手県埋蔵文化財センターと盛岡市教育委員会による、約20年間、計17遺跡、のべ60万㎡以上にも及ぶ発掘調査の結果、そこには先史の縄文時代から、古代、中世、近世の江戸時代にまで連綿と続いていた、先人の歴史が明らかとなりました。特に、7世紀後半～10世紀という、都の律令(りつりょう)政府が東北北部にまで進出した歴史の大きな転換点に前後する10箇所もの古代集落の全域が調査され、1300棟以上の竪穴(たてあな)建物や掘立柱(ほったてばしら)建物が発見されたことは貴重な成果でした。展示では、律令政府の最前線として、西隣の太田地区に、坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)が9世紀初頭に志波城を造営するまで、つまり蝦夷(エミシ)と呼ばれた人々が活躍した時代の盛南地区に焦点をあて、現代に生きる我々東北人が知るべき先人たちの暮らしや社会を紹介・解説します。

平成29年10月

盛岡市遺跡の学び館

## 開催要項

### ■盛岡市遺跡の学び館 第15回企画展

「“志波城前夜”の蝦夷(エミシ)社会－9世紀初頭以前の盛南地区－」

会期／平成29年(2017)10月7日(土)～平成30年(2018)1月21日(日)

会場／盛岡市遺跡の学び館企画展示室

主催／盛岡市遺跡の学び館

後援／岩手考古学会、岩手史学会、岩手日報社、朝日新聞盛岡総局、読売新聞盛岡支局、毎日新聞盛岡支局、時事通信社盛岡支局、共同通信社盛岡支局、河北新報社、産経新聞盛岡支局、デーリー東北新聞社、盛岡タイムス社、岩手日日新聞社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、岩手ケーブルテレビジョン、エフエム岩手、ラヂオもりおか、マシェリ、情報紙ゆうゆう、アキュート

### ■特別講演会

演題／「古代東北の蝦夷(エミシ)と律令国家」

講師／八木 光則 氏(岩手大学平泉文化研究センター客員教授)

日時／平成29年(2017)11月12日(日)13時30分～15時30分(予定)

会場／遺跡の学び館研修室

## 目次

1. 異民族とされた蝦夷(エミシ) ..... 4  
○中華思想と蝦夷 ○末期古墳と赤彩球胴甕
2. 文献に見る「志波村」 ..... 5  
○城柵設置と移民 ○「三十八年戦争」と志波蝦夷 ○桓武天皇の遷都と征討  
○坂上田村麻呂と北方の蝦夷 ○胆沢城造営・移民とアテルイの降伏
3. 「志波村」北部の古代集落 ..... 8  
○盛南地区の蝦夷集落と墓域  
台太郎遺跡, 野古A遺跡, 本宮熊堂B遺跡, 向中野館・細谷地遺跡,  
飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡
4. 坂上田村麻呂と蝦夷 ..... 22  
○田村麻呂の人物像 ○田村麻呂と桓武・蝦夷・アテルイ ○田村麻呂の対蝦夷戦略

図録執筆・編集 津嶋知弘, 樋下理沙

協力 岩手県教育委員会, (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

### 発掘調査報告書

<盛岡市教育委員会>

2005年3月 『盛岡市内遺跡群－平成15年度・16年度発掘調査報告－』〔台太郎遺跡55次〕

2009年3月 『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅱ－盛岡南新都市開発整備事業平成5～12年度発掘調査②－稲荷遺跡・本宮熊堂A遺跡・本宮熊堂B遺跡・野古A遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・向中野館遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・南仙北遺跡－』〔稲荷遺跡1・1次補足, 本宮熊堂A遺跡2・2次補足, 本宮熊堂B遺跡3・3次補足・8・11次, 野古A遺跡6次・6次補足, 飯岡沢田遺跡1・2次, 飯岡才川遺跡1次, 向中野館遺跡1・2次, 細谷地遺跡2次, 矢盛遺跡2次, 南仙北遺跡15～17・22～24・27・28・30～32・35次〕

2010年11月 『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅲ－盛岡南新都市開発整備事業平成5～12年度発掘調査③－台太郎遺跡－』〔台太郎遺跡9～14・17・20・21・24・25・27～34次〕

2016年9月 『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅷ－盛岡南新都市開発整備事業平成22～24年度発掘調査①－台太郎遺跡・飯岡沢田遺跡・夕覚遺跡－』〔台太郎遺跡71・72・74～76次, 飯岡沢田遺跡13次, 夕覚遺跡7・10次〕

<岩手県埋蔵文化財センター>

2001年3月 『台太郎遺跡第18次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第369集

2002年2月 『熊堂B遺跡第10次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第377集

2003年3月 『台太郎遺跡第23次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第415集

2003年3月 『台太郎遺跡第35次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第417集

2003年3月 『飯岡沢田遺跡第3次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第418集

2003年3月 『野古A遺跡第12次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第420集

2005年2月 『台太郎遺跡第51次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第468集

2006年2月 『本宮熊堂A遺跡第24次・本宮熊堂B遺跡第25次発掘調査報告書－一般国道46号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査－』第470集

2006年3月 『台太郎遺跡第54次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第486集

2006年2月 『飯岡沢田遺跡第9・10次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第489集

2007年3月 『細谷地遺跡第9次・第10次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第500集

2007年2月 『野古A遺跡第23・24・29次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第501集

2007年3月 『向中野館遺跡第5・6次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第503集

2008年2月 『細谷地遺跡第13次・第14次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第513集

2008年1月 『飯岡才川遺跡第12次発掘調査報告書－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査－』第515集

2010年3月 『向中野館遺跡第10・11次発掘調査報告書－盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査－』第557集

2011年3月 『台太郎遺跡第66次発掘調査報告書－盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査－』第579集

2012年3月 『矢盛遺跡第27次・野古A遺跡第30次発掘調査報告書－盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査－』第594集



### 3. 「志波村」北部の古代集落

#### ○盛南地区の蝦夷集落と墓域

古代の文献に見られる「志波村」（後の斯波郡）の範囲は、東西に流れる雫石川を北の境として、現在の盛岡市南半部・矢巾町・紫波町のエリアと考えられ、この地域の北端となる太田地区に、延暦二十二年（803）、古代城柵「志波城（しわじょう）」が造営されます。志波城跡の東方5km圏内、JR盛岡駅西口地区から「杜の大橋」で雫石川を渡った先に広がる新しい街並みが盛南（せいなん）地区で、313.5haという大規模な土地整理事業が独立行政法人都市再生機構（旧地域振興整備公団）により実施されました。この事業区域内には約88ha、17箇所の遺跡があり、市教委と県埋文センターが関連工事施工前の発掘調査を行いました。野外調査は平成5年度（1993）に開始され、平成24年度（2012）に終了。発掘報告書刊行は平成28年度（2016）に完了しました。なお、南東に隣接する道明（どうみょう）地区の土地整理事業（市施工）でも、連続する遺跡の発掘調査が継続しています。

発掘された遺跡の多くが、7世紀～10世紀の古代（古墳時代末～奈良・平安時代）のものであり、集落や墓域のほぼ全体が調査・報告されている貴重な事例と言えます。発見された竪穴（たてあな）建物は、11遺跡で総計1370棟以上、そのほか高床倉庫などの掘立柱（ほったてばしら）建物や、末期古墳と考えられる円形周溝墓群なども確認されています。盛南地区は、志波村・斯波郡北部の一大拠点であったことが明らかとなったのです。また、蝦夷系住民による集落から出土した多くの土器群と、律令（りつりょう）国家が造営した城柵である志波城跡から出土している土器

群を検討し、文献に見られる志波村・斯波郡の複雑な歴史的背景・経過を重視することにより、9世紀前葉段階は、集落の性格によって非ロクロ土師器坏主体の土器群と、底部回転ヘラ切り須恵器坏主体の土器群が併存したとの理解に立つ土器群変遷が提示されています（津嶋2013・2015）。この土器編年観を時間軸とすると、盛南地区各遺跡の古代集落の時期的消長は、①7・8世紀から継続して営まれる集落、②9世紀前半から始まる集落、③9世紀後半以降から始まる集落、と三区別できます（津嶋2004）。また、志波城造営以前を知ることのできる①については、7世紀から継続して形成される集落と、8世紀に入ってから形成される集落があります（村田2016）。



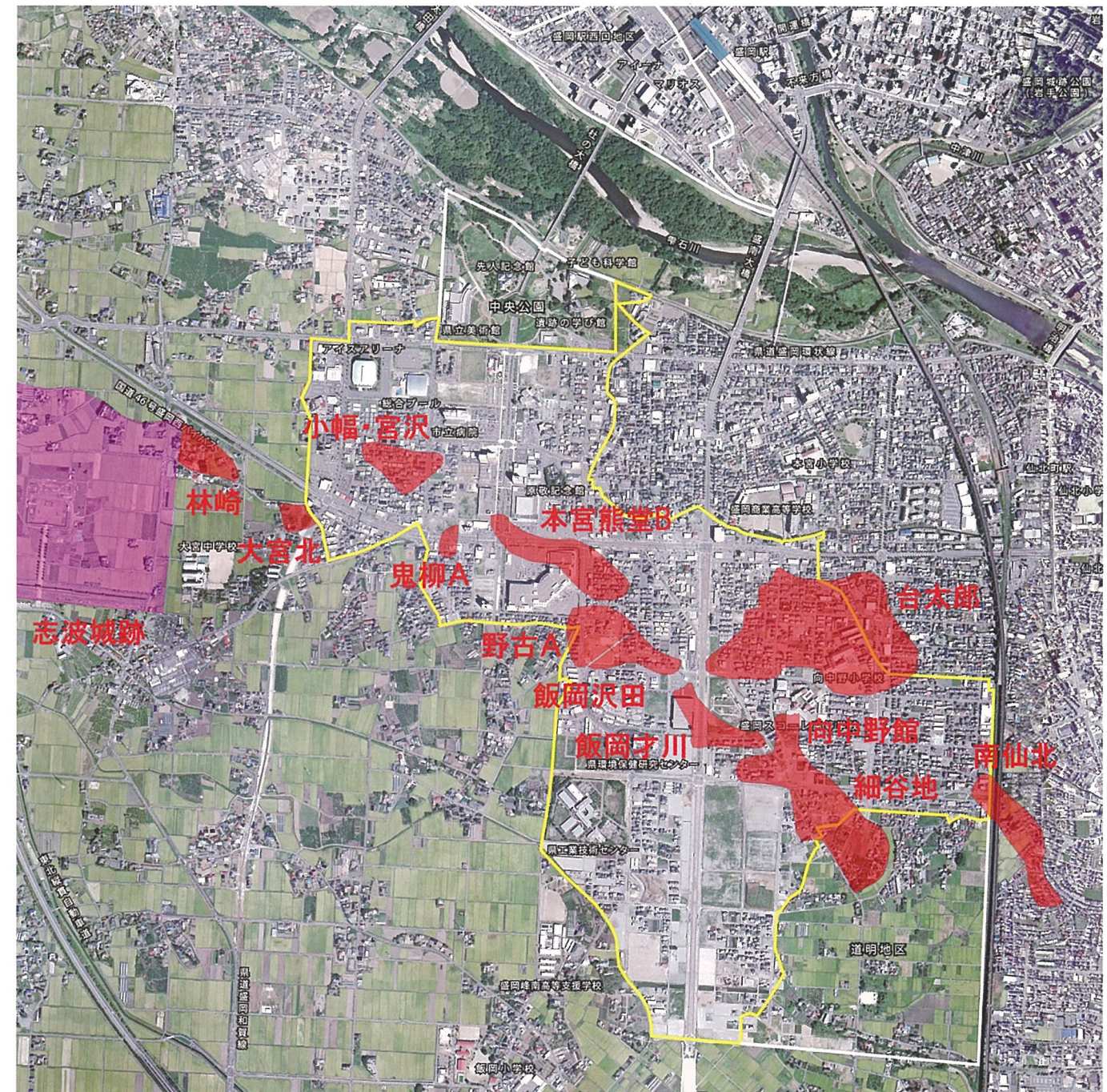
盛南地区の古代集落と地形

盛南地区の古代竪穴建物数一覧表

遺跡名	竪穴建物数	備考
小幡・宮沢	47	完掘
鬼柳A	9	西部未調査地域あり
本宮熊堂B	138	完掘
野古A	97	南西部未調査地域あり
台太郎	702	東部未調査地域あり
飯岡沢田	33	完掘
飯岡才川	52	完掘
向中野館	43	完掘
細谷地	246	南端部未調査地域あり
南仙北	11	東半部未調査地域あり
総計	1,378	【2016年度末】



台太郎遺跡第68次調査全景（2009年撮影）



盛南地区の古代集落



**〔台太郎遺跡 (だいたろういせき)〕**

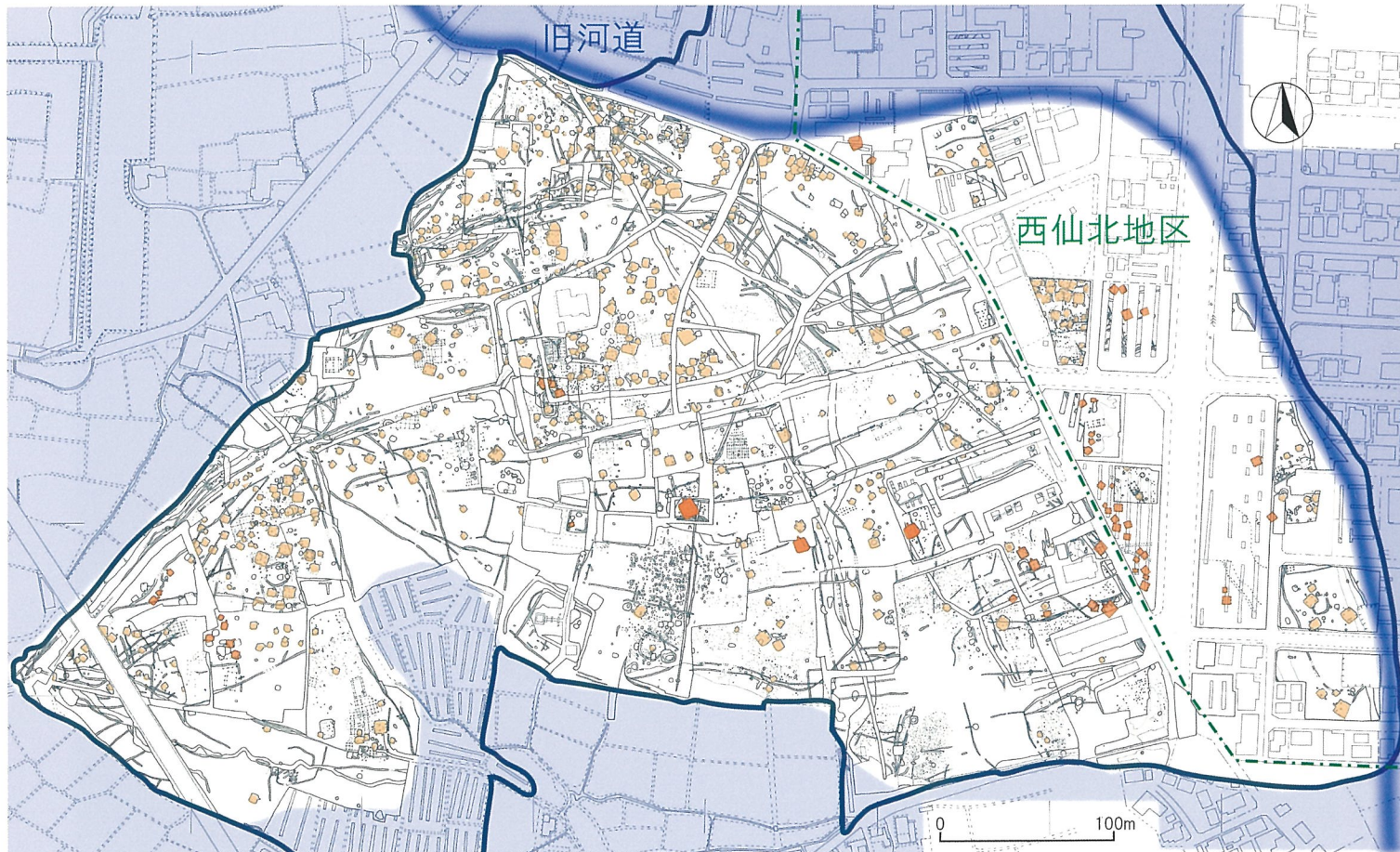
志波城跡の東方約2.5kmにあり、雫石川南岸に続く低位段丘が南に曲がる屈曲点に位置します。竪穴建物の分布範囲は東西約800m、南北約450mと広大で、精査された竪穴建物700棟以上は、盛南地区最大の古代集落です。集落は7世紀代から開始され、7世紀後半から9世紀前葉に属する竪穴建物は200棟以上。いくつかのまとまりを形成して集落範囲の南西部を除く全域に分布し、重複はみられません。カマド方向は、北西カマドが圧倒的ですが、北東～南カマドもわずかに存在します。カマドの作り替えがあるものは少数です。

7世紀後半の竪穴建物としては、集落北西部に位置する市25次 RA345があり、体部に段を有し口縁部がやや外反する大ぶりの非ロクロ土師器坯と広口の球胴甕が出土しています。8世紀前葉からは、一辺8mクラスの特大住居が出現するようになり(県66次 RA632、市74次 RA667、県26次 RA441・市46次 RA578など)、非ロクロ土師器坯・長胴甕・球胴甕といった土器のほか、道具である石製・土製紡錘車や鉄製品、装飾品の勾玉(まがたま)、

土玉、切子玉(きりこだま)・ガラス小玉・管玉(くだたま)などの貴重品を保有することから、血縁集団の家父長(かふちょう)クラスの住居と考えられます。その中でも最大の竪穴建物が、集落の中央に位置する市55次 RA613(8世紀中葉)です。北西カマドで南東部に張り出しを持つ長辺10m・短辺9.5mの隅丸方形の超特大住居。4口の主柱穴とその間に配置された8口の副柱穴、周溝、仕切状溝があります。ガラス小玉、管玉、有孔砥石、刀子、赤

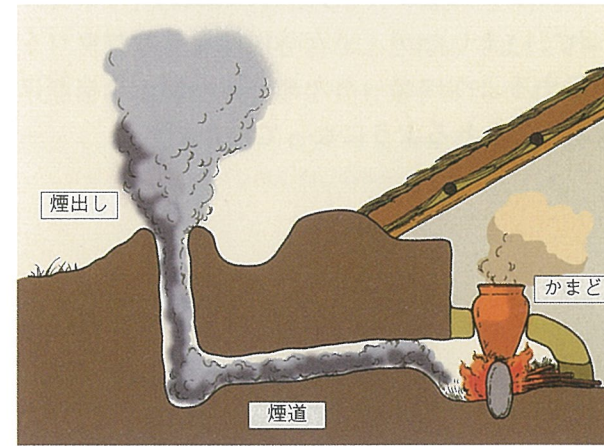


台太郎遺跡第74次調査 RA667全景

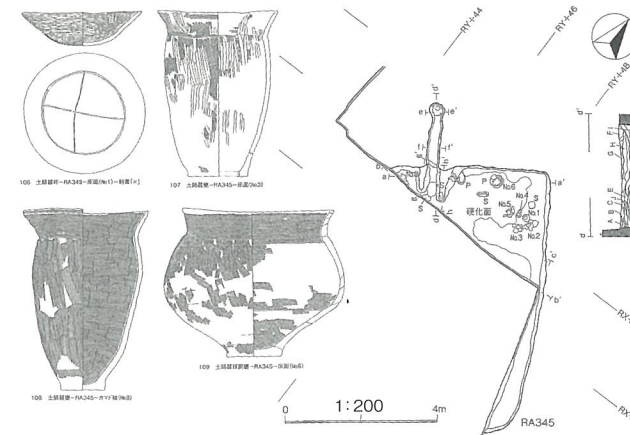


台太郎遺跡古代集落(7世紀後半～10世紀) 1/4000

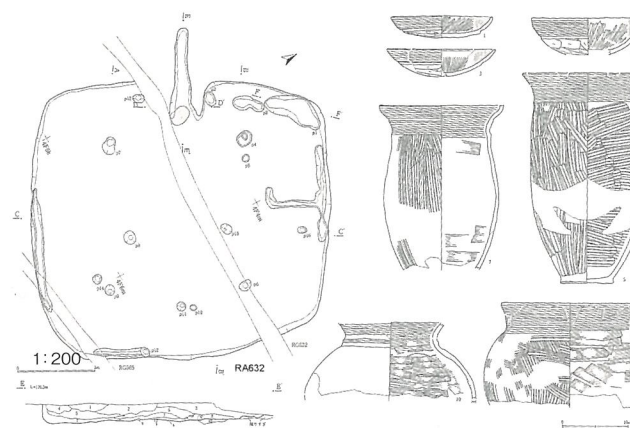
彩球胴甕が出土していることから、盛南地区が位置する「志波村」北部の族長クラスの住居と推定できます。律令国家系の底部回転ヘラ切り須恵器坯が特徴的な竪穴建物は、集落北西部に位置する市25次 RA378・379がありますが、かなり少数です。



カマドのしくみ

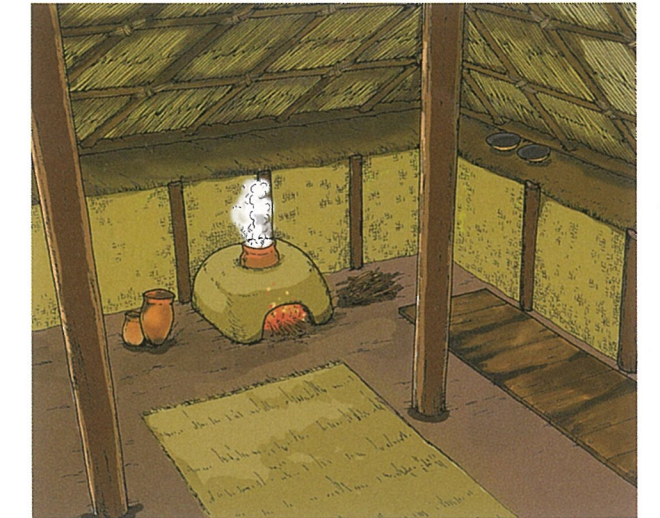


台太郎遺跡第25次調査 RA345竪穴建物跡と出土土器(7世紀後半) [市教委2010より作成]

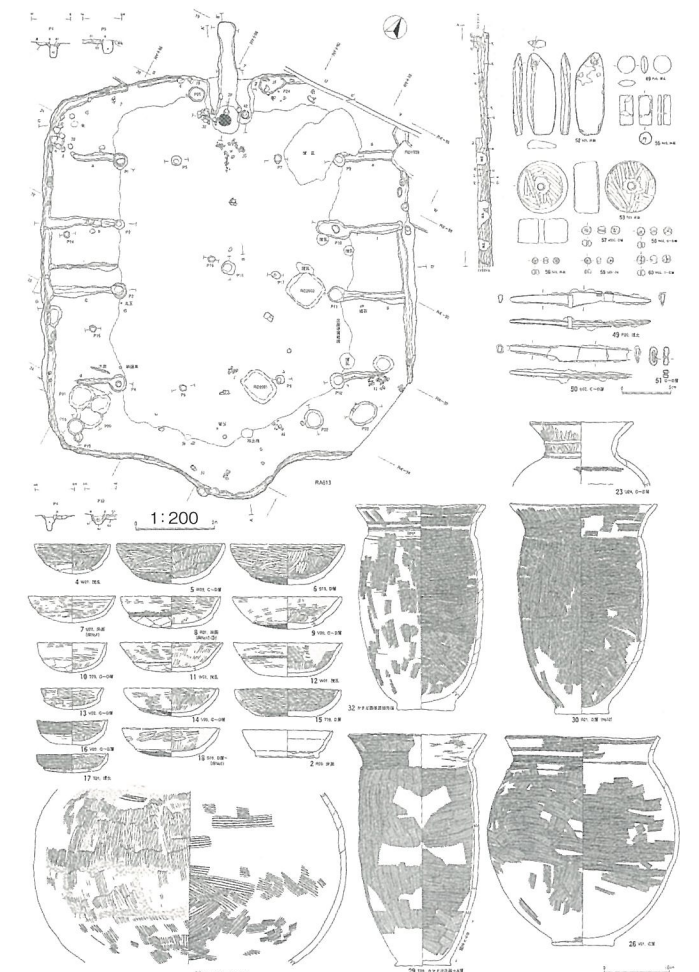


台太郎遺跡第66次調査 RA632竪穴建物跡と出土土器(8世紀前葉) [県埋文2011より作成]

他地域との交流を知ることができるものとしては、頸部に平行沈線文や鋸歯(きょし)状文のある土師器甕・球胴甕があり、北海道の擦文(さつもん)文化の影響とみられます。



竪穴建物の内部



台太郎遺跡第55次調査 RA613竪穴建物跡と出土遺物(8世紀中葉) [市教委2005より作成]